



HiRDB Version 10 体験版 チュートリアル

2019/3

株式会社 日立製作所 サービス&プラットフォームビジネスユニット
サービスプラットフォーム事業本部 DB部

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

アンインストール

インストール前の確認事項

インストール前に必ず下記の事項をご確認ください。

- **HiRDB**体験版の「日立製作所プログラム・プロダクト体験版使用許諾契約書」をご覧になり、同意いただけることを確認してください。
- 下記の**OS**の**x64**版に対応しています。
 - Windows® 7 (Professional, Enterprise, Ultimate)
 - Windows Server® 2012 (Standard, Datacenter)
 - Windows Server® 2012 R2 (Standard, Datacenter)
 - Windows® 8.1 (Pro, Enterprise)
 - Windows® 10 (Pro, Enterprise)
 - Windows Server® 2016 (Standard, Datacenter)
 - Windows Server® 2019 (Standard, Datacenter)
- ダウンロード先のディスクには、約**280MB**の空き容量が必要です。
- インストール先のディスクには、約**1.7GB**の空き容量が必要です。
- 既に以下の製品がインストールされている**PC**には、**HiRDB**体験版をインストールしないでください。
 - HiRDB/Single Server
 - HiRDB SQL Executer
 - HiRDB Control Manager - Server
 - HiRDB Control Manager - Console
 - HiRDB Control Manager - Agent
 - HiRDB SQL Tuning Advisor
 - HiRDB/Run Time
 - HiRDB XML Extension

HiRDB体験版をインストールしてみよう！

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

アンインストール

ダウンロードしたファイルを解凍し、setup.exeを実行するとインストーラが起動します。
自動でインストールおよびサンプルDBの作成を行います。(約5~10分)

ダウンロードしたファイルを解凍すると、解凍先フォルダ下に DISK0 フォルダが展開されます。
DISK0¥setup.exeを実行するとインストーラが起動します。

① インストールを開始してよければ、「はい」をクリック

② 「次へ」をクリック

③ 「次へ」をクリック

④ 自動的にインストール開始

⑤ 「再起動」を選択してインストール・DB作成終了

※自動インストール開始後は、インストール完了まで操作しないでお待ちください。

【注意事項】

- ・ダウンロードしたファイルの格納先ディレクトリ名称に **全角文字** を使用できません。
- ・インストールディレクトリは変更しないでください。変更する場合は、インストール開始前に次のディレクトリを作成してください。
C:¥Program Files¥HiRDB TR¥SRV
- ・インストールディレクトリ名称に**全角文字**を使用できません。
- ・インストールに必要なディスク容量は1.7GBです。
- ・Microsoft® .NET Framework 4以降がインストールされていないマシンには、.NET Framework 4に対応したデータプロバイダはインストールしません。
.NET Framework 4に対応したデータプロバイダを使用する場合は、HiRDB体験版のインストール前に.NET Framework 4以降をインストールしてください。

・Microsoft .NET は、お客様、情報、システムおよびデバイスを繋ぐソフトウェアです。
© Hitachi, Ltd. 2019. All rights reserved.

HiRDBを起動してみよう！（初回起動時のみ）

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

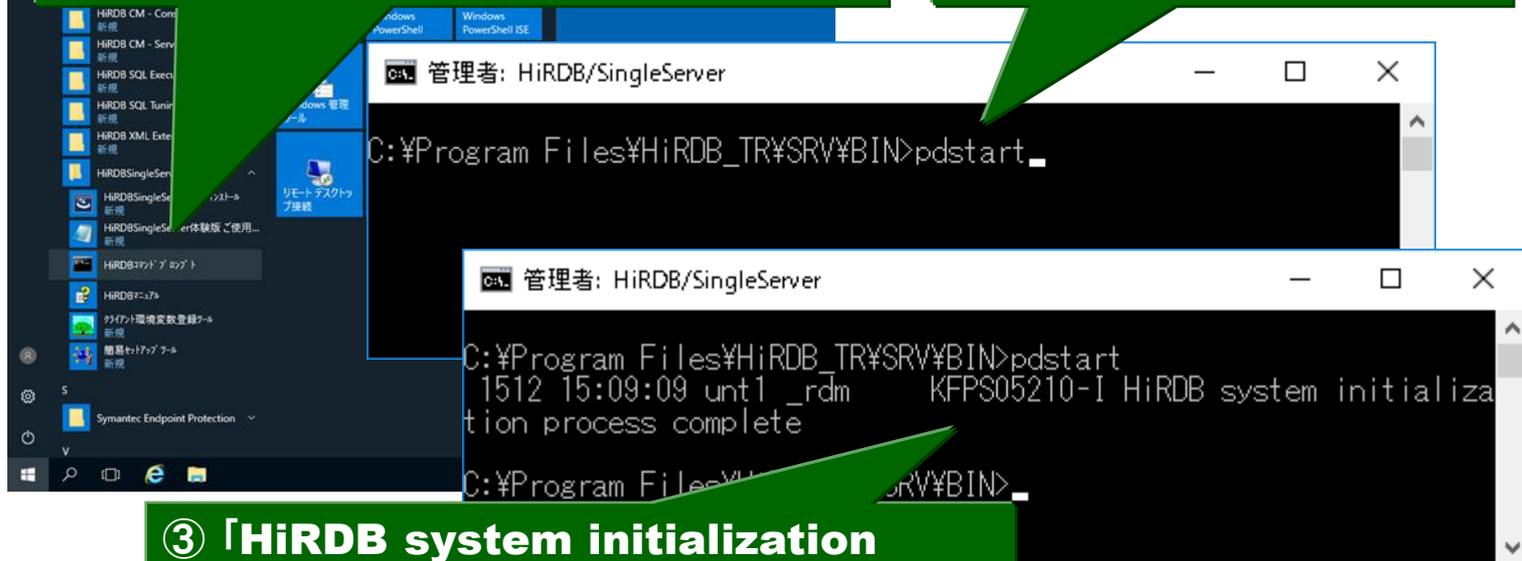
アンインストール

OSの再起動が完了したら、HiRDB/Single Server を起動します。

[スタート]-[HiRDB Single Server]-[HiRDBコマンドプロンプト]

① スタートメニューから
HiRDB Single Server の
コマンドプロンプトを選択して起動

※Windows 8.1以降、またはWindows Server 2012以降の場合は、アプリ一覧から選択するか、検索チャームで検索してHiRDBコマンドプロンプトを起動してください。



③ 「HiRDB system initialization process complete」が出力されれば起動完了！

※初回はコマンドで起動してください。次回からは、HiRDB Control Manager で起動できます。

Control ManagerでHiRDBを操作してみよう！（準備）

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

アンインストール

次に**HiRDB Control Manager**で、**HiRDB**サーバを管理する為の準備を行います。まず**HiRDB Control Manager**を起動します。

【スタート】-【**HiRDB CM - Console**】-【**HiRDB CM - Console**】

① スタートメニューから HiRDB CM-Consoleを起動

※Windows8.1以降、またはWindows Server 2012以降の場合は、アプリ一覧から選択するか、検索チャームで検索してHiRDB CM-Consoleを起動してください。



② HiRDB Control Manager に パスワード「manager」でログイン！

Control ManagerでHiRDBを操作してみよう！（準備）

インストール
・DB作成

起動・登録

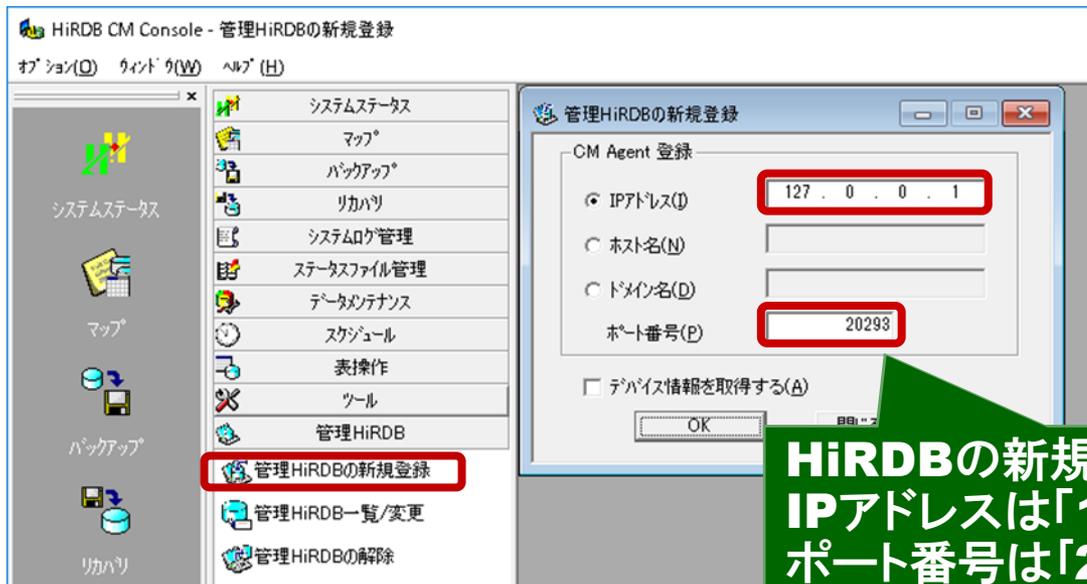
サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

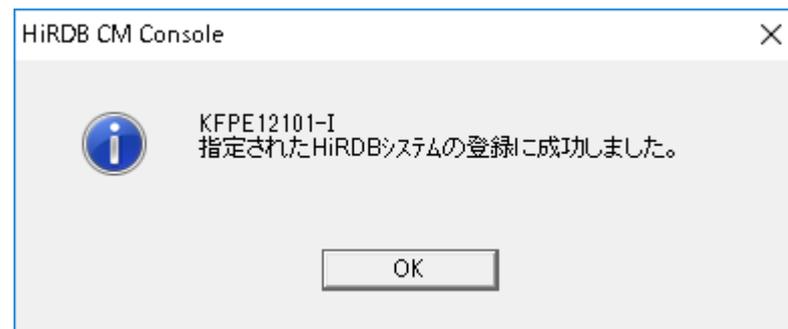
アンインストール

HiRDB Control Managerに、管理対象のHiRDBを登録します。
これで準備完了です。



HiRDBの新規登録
IPアドレスは「127.0.0.1」
ポート番号は「20293」を入力

※この登録は初回のみ必要です。



初期登録終了後のご使用は
次ページの手順から始めてください

Control ManagerでHiRDBを起動してみよう！

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

アンインストール

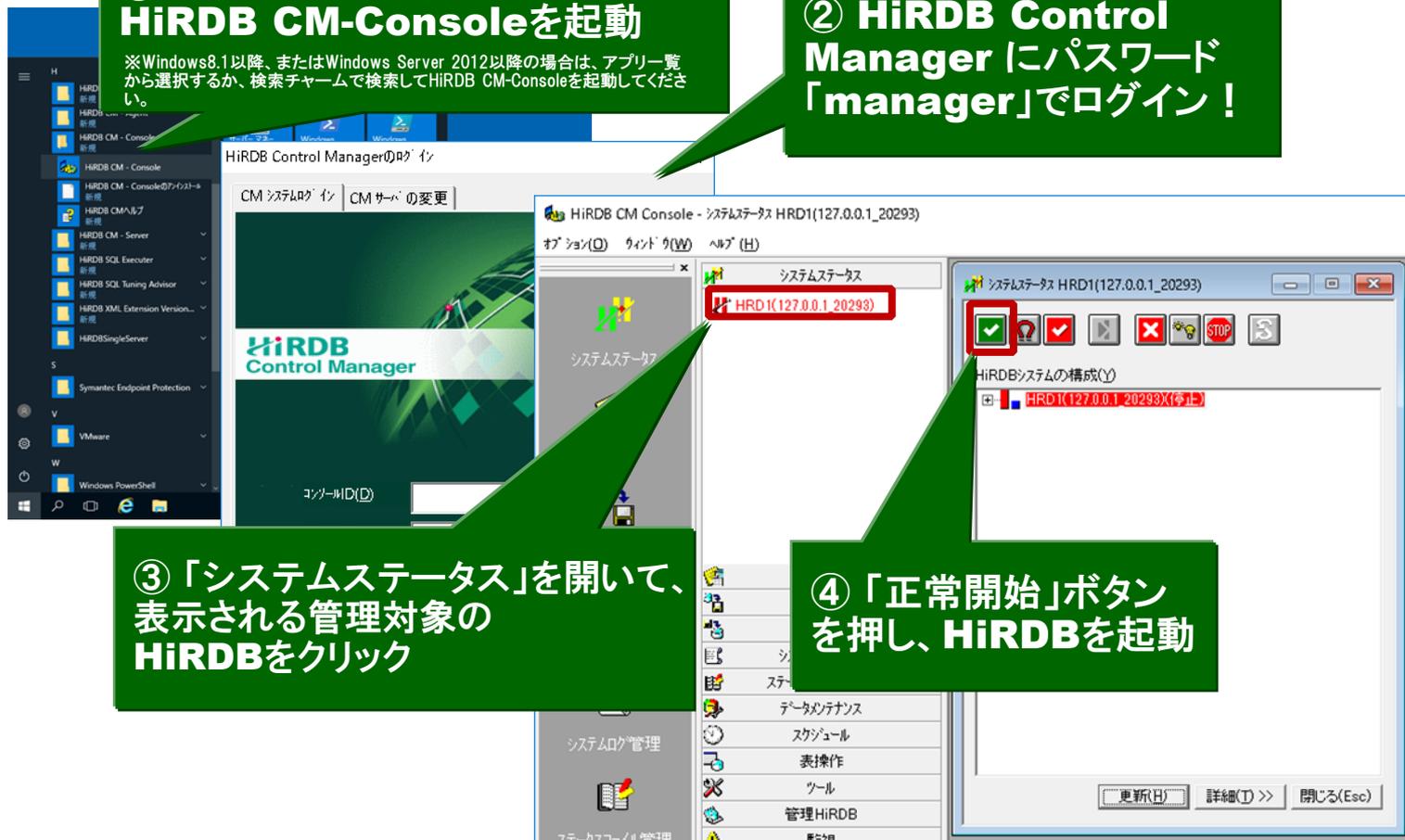
HiRDB Control Managerに起動します。HiRDB Control Managerを使用すると、HiRDBの状態を表示したり、HiRDBの起動/停止をGUI操作で行うことができます。

【スタート】-[HiRDB CM - Console]-[HiRDB CM - Console]

① スタートメニューから
HiRDB CM-Consoleを起動

※Windows8.1以降、またはWindows Server 2012以降の場合は、アプリ一覧から選択するか、検索チャームで検索してHiRDB CM-Consoleを起動してください。

② HiRDB Control
Manager にパスワード
「manager」でログイン！



③ 「システムステータス」を開いて、
表示される管理対象の
HiRDBをクリック

④ 「正常開始」ボタン
を押し、HiRDBを起動

Control ManagerでHiRDBを操作してみよう！

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

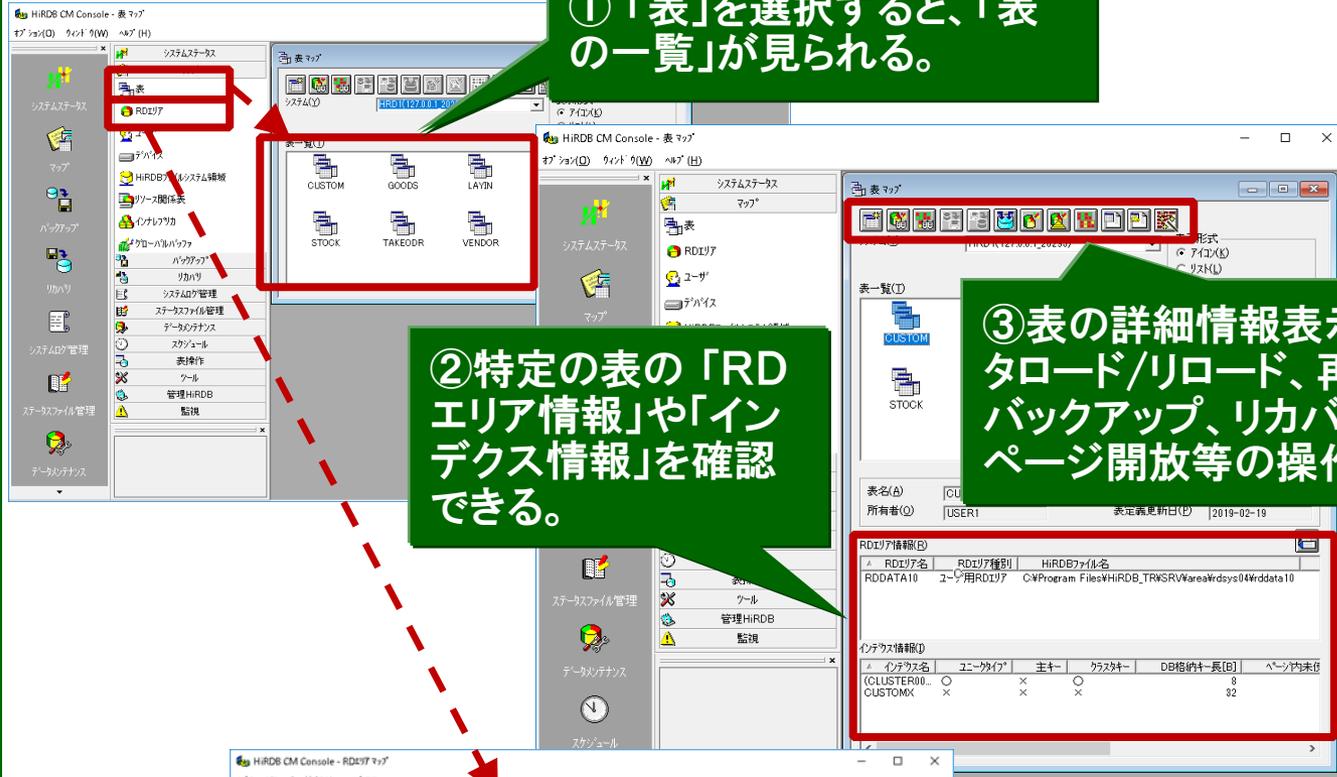
チューニング

HiRDBの
停止

アンインストール

HiRDB Control Managerを使って、表の一覧や定義情報やRDエリアの一覧などを表示します。

①「表」を選択すると、「表の一覧」が見られる。

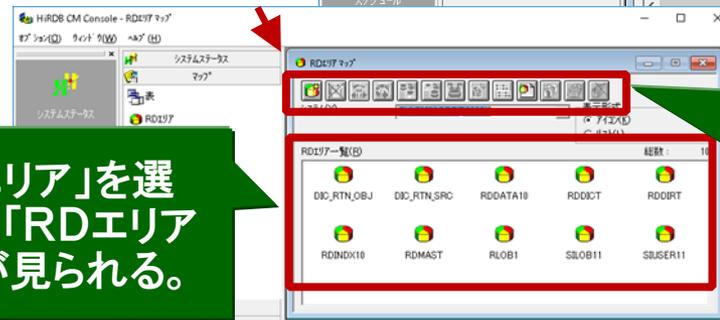


②特定の表の「RD
エリア情報」や「イン
デクス情報」を確認
できる。

③表の詳細情報表示や、データロード/リロード、再編成、バックアップ、リカバリ、空きページ開放等の操作ができる。

④「RDエリア」を選択すると、「RDエリアの一覧」が見られる。

⑤RDエリアの詳細情報表示や、RDエリアの追加/削除/拡張、バックアップ、リカバリ等の操作ができる。



サンプルデータベースにアクセスしてみよう！

インストール
・DB作成

起動・登録

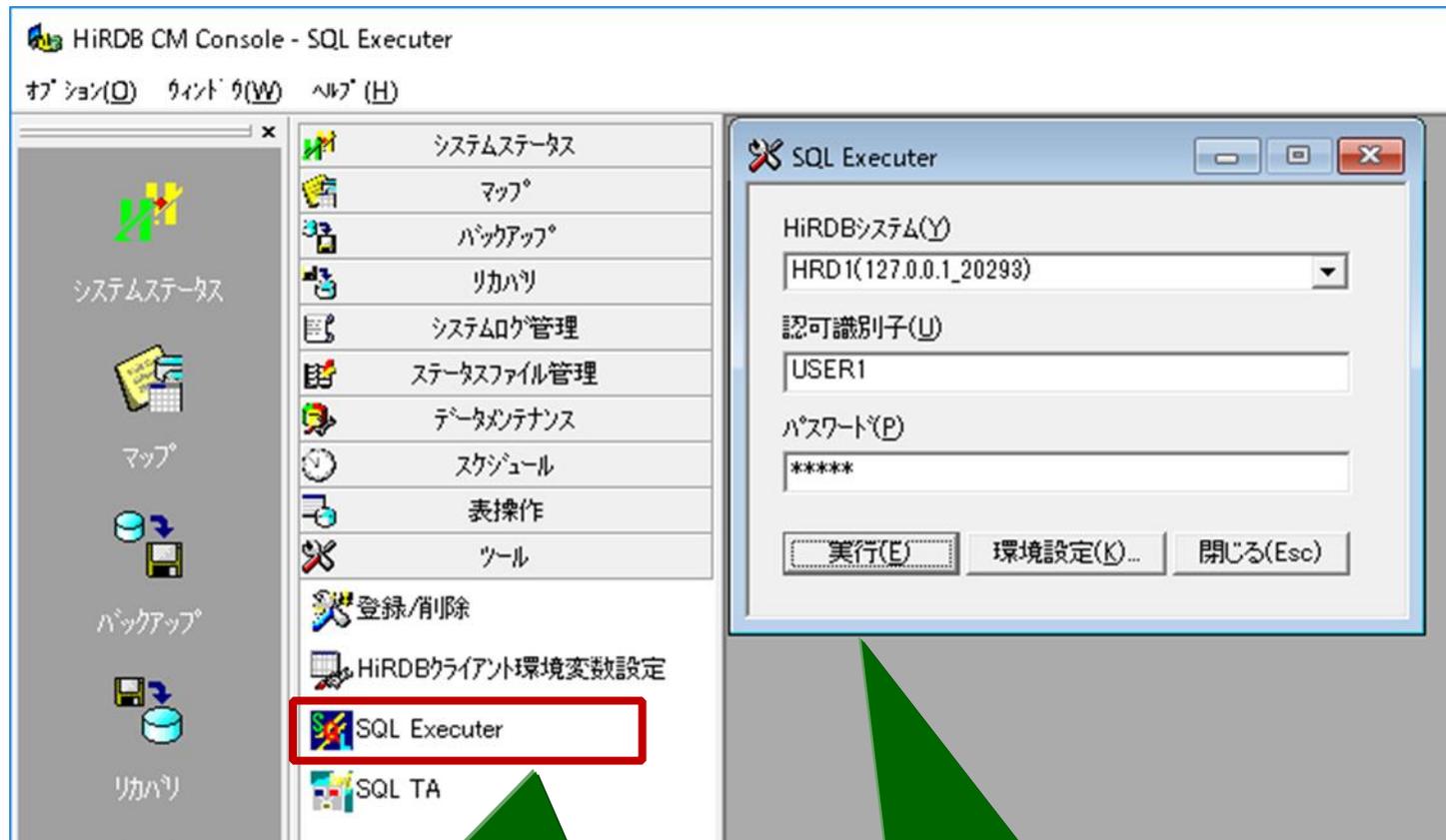
サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

アンインストール

HiRDB SQL Executerを起動します。



① 「ツール」のメニューから
「SQL Executer」を起動

② ユーザ名に「USER1」、パス
ワードに「USER1」を入力し、
「実行」ボタンを選択

サンプルデータベースにアクセスしてみよう！

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

チューニング

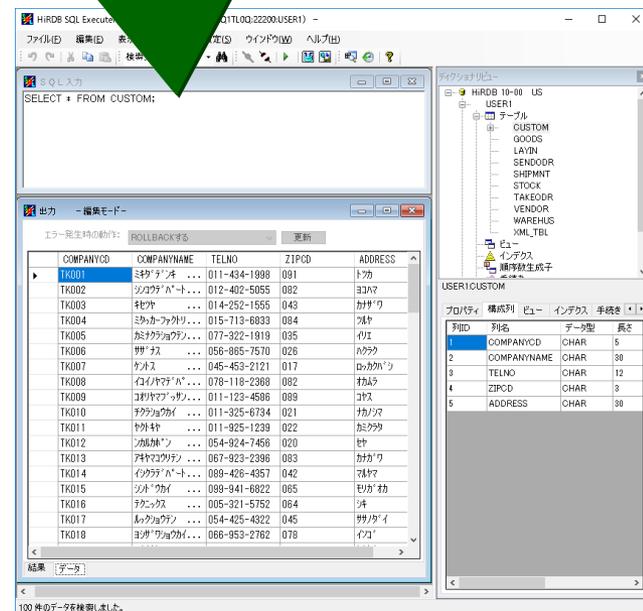
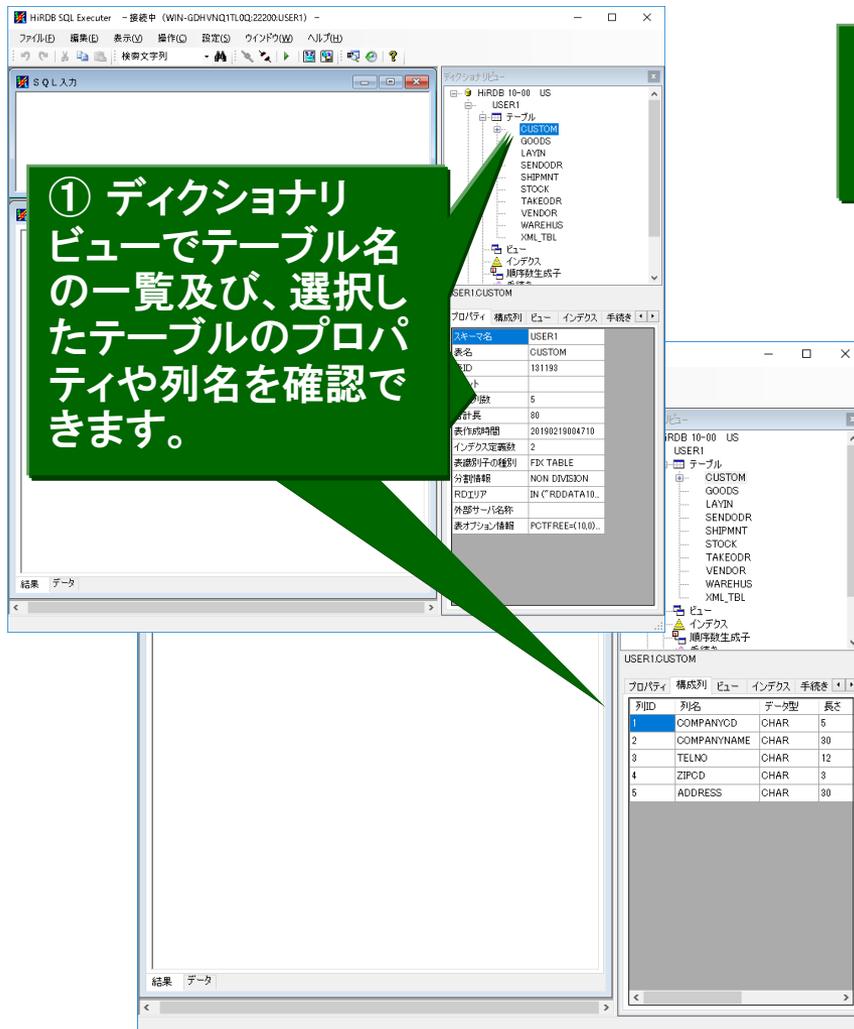
HiRDBの
停止

アンインストール

HiRDB SQL ExecuterでSQLを実行します。

① ディクショナリ
ビューでテーブル名
の一覧及び、選択し
たテーブルのプロパ
ティや列名を確認で
きます。

② SELECT文を入力すると結果を
表示できます。
(例:「SELECT * FROM 表名;」)



サンプルデータベースにアクセスしてみよう！

インストール
・DB作成

起動・登録

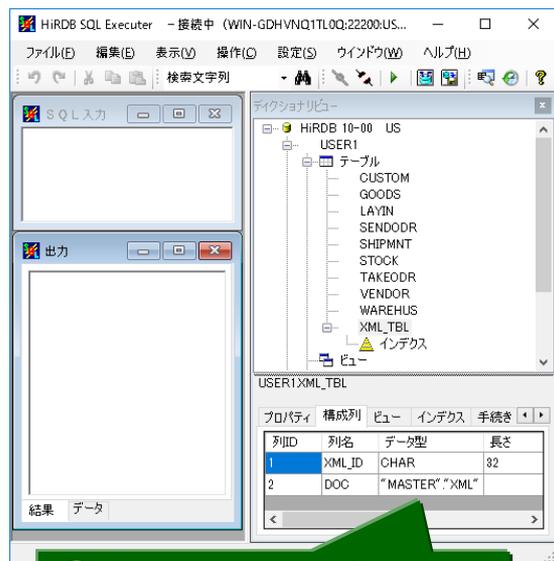
サンプルDB
へのアクセス

チューニング

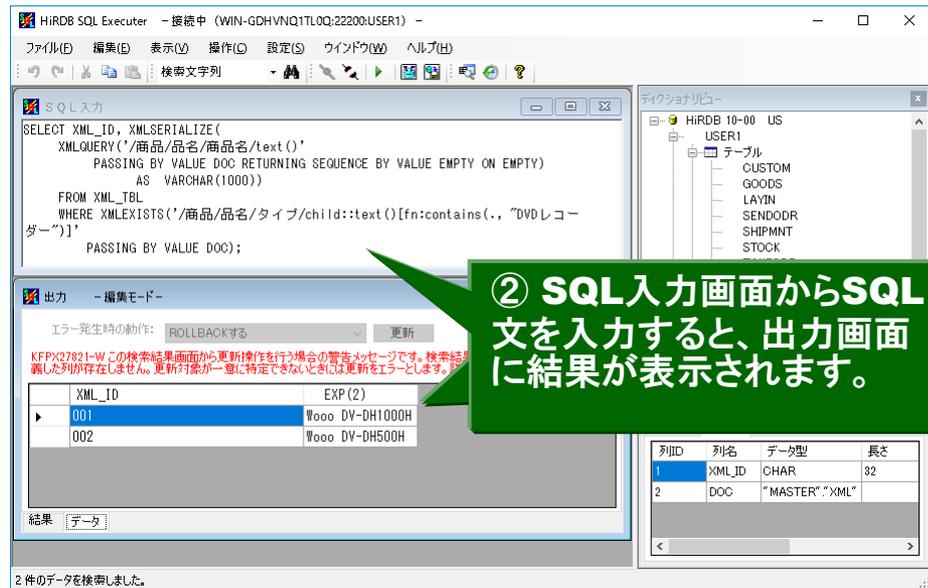
HiRDBの
停止

アンインストール

XQuery, XML/SQLを用いて、XML文書を検索します。



① 「XML_TBL」表にXMLデータが登録されています。



【入力SQL文サンプル】

```
SELECT XML_ID, XMLSERIALIZE(  
  XMLQUERY('/商品/品名/商品名/text()'  
    PASSING BY VALUE DOC RETURNING SEQUENCE BY VALUE EMPTY ON EMPTY)  
  AS VARCHAR(1000))  
FROM XML_TBL  
WHERE XMLEXISTS('/商品/品名/タイプ/child::text()[fn:contains(., "DVDレコーダー")'])  
  PASSING BY VALUE DOC;
```

※本体験版では、ネイティブXML機能を利用するための製品である、HiRDB XML Extensionをあらかじめ組み込んだ状態にしています。

CやJavaでアプリケーションを作成してみよう！

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

チューニング

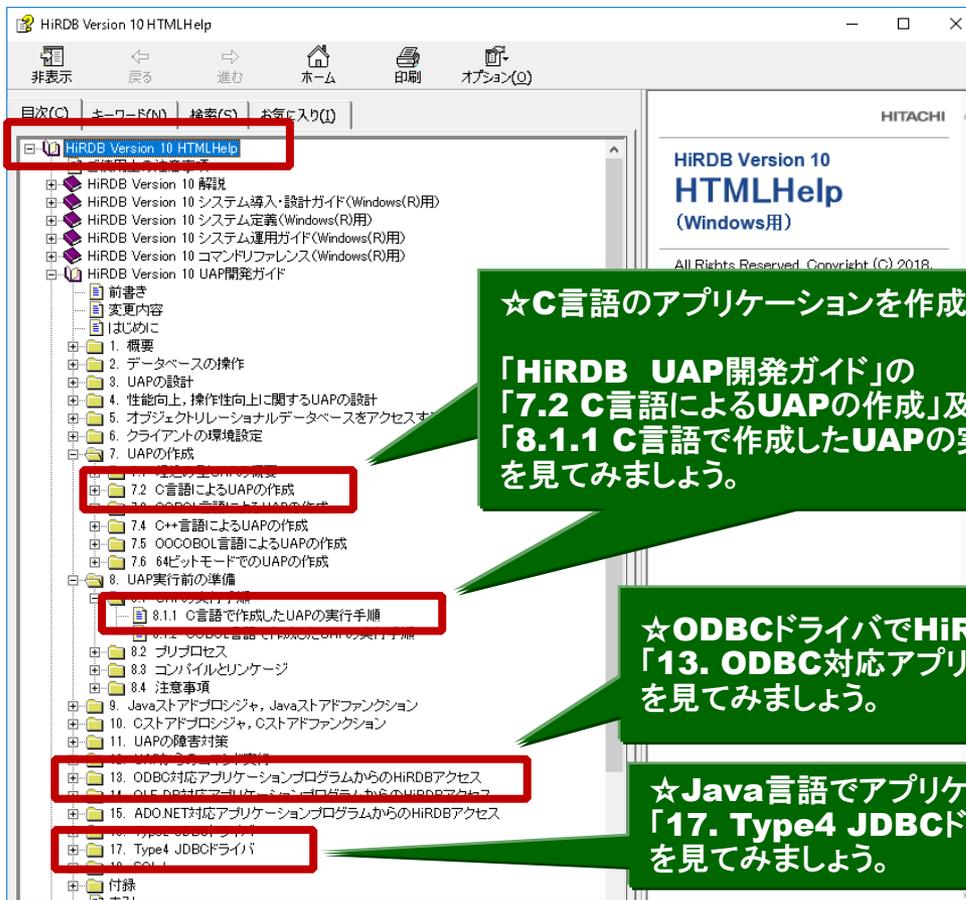
HiRDBの
停止

アンインストール

CやJavaを使ってユーザアプリケーションプログラム(UAP)を作成できます。
実際のHiRDBを使って試してみましょう。 **※体験版の中にマニュアルが収録されています。**

【スタート】-[HiRDB Single Server]-[HiRDBマニュアル]

※Windows8.1以降、またはWindows Server 2012以降の場合は、アプリ一覧から選択するか、検索チャームで検索してHiRDBマニュアルを起動してください。



☆C言語のアプリケーションを作成してみよう！

「HiRDB UAP開発ガイド」の
「7.2 C言語によるUAPの作成」及び
「8.1.1 C言語で作成したUAPの実行手順」
を見てみましょう。

☆ODBCドライバでHiRDBに接続してみましょう！
「13. ODBC対応アプリケーション...」
を見てみましょう。

☆Java言語でアプリケーションを作成してみよう！
「17. Type4 JDBCドライバ」
を見てみましょう。

技術資料「HiRDB アプリケーション開発ガイド」(※)も参考にしてください。
(※)「https://www.hitachi.co.jp/hirdb/files/tech_info/index.html」よりダウンロードできます。

SQLのチューニングをしてみよう！

インストール
・DB作成

起動・登録

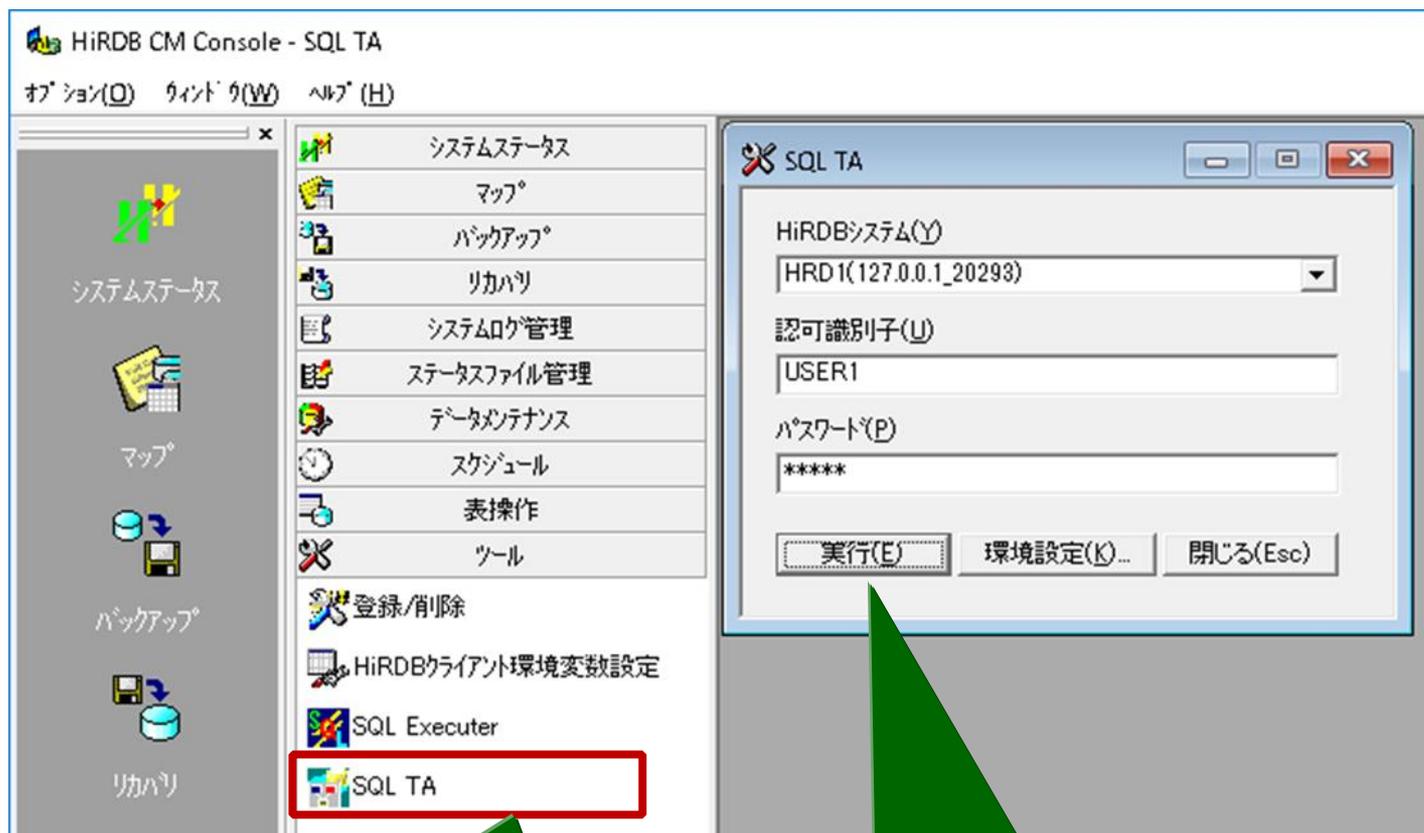
サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

アンインストール

HiRDB SQL Tuning Advisorを起動します。



① 「ツール」のメニューから
「SQL TA」を起動

② ユーザ名に「USER1」、パス
ワードに「USER1」を入力し、
「実行」ボタンを選択

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

アンインストール

表(例: **CUSTOM**表)を検索する**SQL**を例に、チューニング情報を表示してみましょう。

① 「ダイナミック
ブラウジング機能」を実行

HiRDB SQL Tuning Advisor

ダイナミックブラウジング

接続情報名(I): 起動時の値 設定(I)...

PDHOST(H): PDNAMEPORT(N): 22200

PDUSER:

ご使用のマシンのIPアドレスが表示されます

認識別子(U): "USER1" パスワード(P): "*****"

文字コード種別(C): SJIS

次回もこの値を使う(E)

その他環境変数(A): その他環境変数設定内容(V):

登録内容(L):

| 変数名称 | 設定値 |
|------|-----|
|------|-----|

SQL(Q):
SELECT * FROM CUSTOM WHERE ZIPCD='0451'

OK
キャンセル
読み出し(B)...
保存

② チューニングしたい
SQLを入力

※HiRDB Control Managerからではなく、HiRDB SQL Tuning Advisorを直接起動した場合は、以下も入力してください。

PDHOST : 「localhost」
PDNAMEPORT : 「22200」
認識別子 : 「USER1」
パスワード : 「USER1」

③ 「OK」ボタンを押す

SQLのチューニングをしてみよう！

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

アンインストール

「ZIPCD列にインデックスを追加する」というチューニング方法が提案されました。
インデックスを定義した後に、再実行してみよう。

①チューニング情報が表示されます。非効率な検索処理になっているようです

②「インデックス提案」を選択し、適切なインデックスの提案を見てみましょう

③「OK」ボタンを選択

※HiRDB Control Managerからではなく、HiRDB SQL Tuning Advisorを直接起動した場合は、以下を入力してから「OK」ボタンを選択してください。

- PDHOST : 「localhost」
- PDNAMEPORT : 「22200」
- 認識別子 : 「USER1」
- パスワード : 「USER1」

④「CUSTOM表のZIPCD列にインデックスを追加」というチューニング方法の提案が表示されました

ご使用のマシンのIPアドレスが表示されます

※案1[単独インデックス]:
1_1_1_1...「USER1.CUSTOM(ZIPCD)」

警告内容

| 警告内容 | 対象種別 | オブジェクト |
|---|------|--------|
| <input type="checkbox"/> KFPX29601-I [[1]QUERY.CUSTOM]検索方法が「TABLE SCAN」となっています。 | Scan | CUSTOM |

TABLE SCAN
CUSTOM
CUSTOM.ZIPCD='0451'

接続情報名(I): 起動時の値 設定(S)...

PDHOST(H): 22200

PDNAMEPORT(N): 22200

認識別子(U): "USER1"

パスワード(P): *****

今回もこの値を使う(B)

次回からこのダイアログを表示しない(O)

OK スキップ キャンセル

インデックス提案一覧

SELECT * FROM CUSTOM WHERE ZIPCD='0451'

※案1[単独インデックス]:
1_1_1_1...「USER1.CUSTOM(ZIPCD)」

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

アンインストール

HiRDBを停止します。停止には、「HiRDB Control Manager」で行う方法と、「HiRDB Single Serverコマンドプロンプト」で行う方法があります。

■ HiRDB Control Managerから終了する方法

① 「正常終了」ボタンを押しHiRDBシステムを正常終了する

② 「正常終了に成功しました」のダイアログが出たら「OK」ボタンを押し、停止完了

③ HiRDBシステムが正常終了したことが色の変化でも確認できる

■ HiRDB Single Serverコマンドプロンプトから終了する方法

【スタート】-【HiRDB Single Server】-【HiRDBコマンドプロンプト】

※Windows8.1以降、またはWindows Server 2012以降の場合は、アプリ一覧から選択するか、検索チャームで検索してHiRDBコマンドプロンプトを起動してください。

```
管理: HiRDB/SingleServer
C:\Program Files\HiRDB_TR\SRV\BIN>pdstop
3276 10:55:37 unt1 _rdm KFPS01841-I HiRDB unit unt1 terminated. mode = NORMAL
3276 10:55:37 unt1 _rdm KFPS01850-I HiRDB system terminated. mode = NORMAL
C:\Program Files\HiRDB_TR\SRV\BIN>
```

① 「pdstop」コマンドを入力し、「HiRDB system terminated」メッセージが出たら停止完了

インストール
・DB作成

起動・登録

サンプルDB
へのアクセス

チューニング

HiRDBの
停止

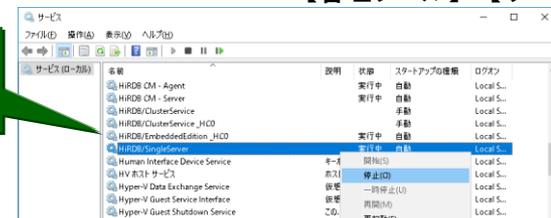
アンインストール

HiRDB体験版を一括してアンインストールするには、下記の手順に従って実行します。

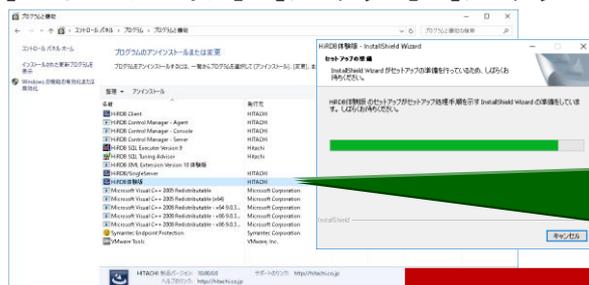
① HiRDBを停止する。(前のページ参照)

② HiRDB CM-Agent、CM-Server、HiRDB Single Server のサービスを停止する。

【コントロールパネル】 - 【システムとセキュリティ】 - 【管理ツール】 - 【サービス】



【コントロールパネル】 - 【プログラム】 - 【プログラムと機能】



③ 【コントロールパネル】-【プログラムの追加と削除】から、「HiRDB体験版」を選択し、「変更と削除」ボタンを選択して、一括アンインストールを実行する。

※HiRDB体験版のインストールの延長で、以下のランタイムがインストールされています。必要に応じてアンインストールしてください。
 ・Microsoft Visual C++ 2005 Redistributable
 ・Microsoft Visual C++ 2005 Redistributable (x64)

④ 【ご注意ください】

途中、個々のプログラムのアンインストールが完了する毎に、Windowsの再起動を促すメッセージが表示されますが、「いいえ」を選択してください。

もしインストールの途中で再起動を実行した場合には、再起動後に個々のプログラムをアンインストールしてください。(手順は個々のプログラムのReadmeを参照してください。なお、Readmeには、製品版固有の記述も記載されています。)



⑤ すべてのプログラムのアンインストールが完了し、「HiRDB体験版のアンインストールが完了しました。」というダイアログが表示されてから、Windowsを再起動する



※インストール先にファイルまたはフォルダが残る場合があります。必要に応じて削除してください。

Webサイトで各種情報を公開しています。是非ご利用ください。

インターネット(一般向け) <https://www.hitachi.co.jp/hirdb/>

リーフレット



FAQ

ノンストップデータベース HiRDB HITACHI Inspire the Next

私たちの暮らしの中で、なくてはならない社会インフラや経済インフラ。それらの安定稼働を支えるIT基盤は、24時間365日、止まらず動作しなく、大量のデータを処理し続ける必要があります。HiRDBは、そんなミッションクリティカルな分野で、20年以上に及び豊富なデータを守り続けてきた、超高度のソリューションデータベースです。

高信頼・ノンストップデータベース HiRDBは、こんなシーンでお役に立ってます

| サービスの24時間化 | 金融取引 | 災害対策 |
|-----------------------|----------------------|----------------------|
| グローバル工場 ネットショッピング | 固定系システム FX取引システム | 機会損失の最小化 データ損失ゼロ |

自信があります！ サポートサービス

- 開発者直結 国産だからできる開発者によるサポート
- 上位互換性 バージョンアップしてもそのまま使用可能
- 障害時対応 「日立サポート360」®によるトータルサポート

*「日立サポート360」は、お客様さまの360°(全方位)を日立の360°(国産力)で対応可能なサポート商品です。ワンストップサポートで、複合問題を解決します。

トピックス&ニュース >

- 2018年8月30日 Spring BatchでHiRDBに接続する場合に必要なライブラリを公開しました。「Hitachi Application Framework 開発フレームワークOSS Edition(HAFJ OSS)」を使用して、HiRDBを前提としたバッチ開発をする場合にご利用ください。
- 2018年7月25日 HiRDB Server Version 9 09-66は、「IEC62430の環境記憶設計に対する要求事項を満たした製品」です。日経xTECH ActiveにHiRDBの検証報告記事「DRAMに迫る速度、"次世代SSD"の実力をデータベースアプリで検証しました。」
- 2018年6月29日 HiRDBの自然言語処理を活用し、回答精度を向上させていくチャットボットサービスを2018年度中にご提供します。日経xTECH記事にHiRDBの検証報告「インテル® Optane™ DC SSDの実力を日立製作所が徹底検証！」が掲載

技術情報検索 リーフレット 動作環境 構成

HiRDB : FAQ

FAQを絞り込む

パスワードを入力してください。

【登録済み 150件】 人気順 | 新着順

作成済みのテーブルのカラム名をSQL文で確認する方法を載せています。 | テーブルのカラム名の確認は、SQL文でデータディクショナリ表を参照して確認できます。カラム... (2018年03月)

HiRDBのテーブル一覧を出力したい | (select TABLE_NAME from master.SQL_TABLES)を実行してください。 (2018年03月)

cp... (2018年03月)

...を使用して... (2018年03月)

製品サポート

よくあるインストール失敗要因

- ・**PATH**環境変数が**1,900**文字を超えていませんか？
- ・ダウンロードしたファイルを格納しているディレクトリ名称に全角文字を含んでいませんか？
- ・インストールディレクトリを初期値から変更していませんか？
変更する場合、インストールが開始するまでに次のディレクトリを作成する必要がありますが、未作成ではありませんか？

C:¥Program Files¥HiRDB_TR¥SRV

- ・インストールディレクトリ名称に全角文字を使用していませんか？
- ・インストール自動実行中に、操作していませんか？
- ・ウイルス対策プログラムなど、他のアプリケーションが動作していませんか？
- ・誤った**IP**アドレスを入力していませんか？
- ・**OS**の前提条件を満たしていますか？
- ・インストール可能なディスクの空き容量が**1.7GB**以上ありますか？
- ・**Windows**管理者ユーザ(**Administrators**グループ)でインストールしていますか？

自動インストール開始から1時間以上経過しても応答がない場合

1時間以上経過してもインストールが終了せず応答がない場合は、**Windows**のタスクマネージャからアプリケーションタグを選択し、「**HiRDB**体験版」のタスクの状態を確認してください。
「**HiRDB**体験版」の状態が応答なしの場合は、インストールを中断してください。
このような状態は、インストール先のディスクの空き容量が不足しているか、仮想メモリ等のメモリ資源がインストール中に不足したことが考えられます。
再度インストール環境を確認してください。

インストール途中で失敗した場合

- インストール中、画面にエラーコードが表示された場合、下記の手順で対策してください。

コード = 12~15の場合

インストール先ディスクの容量不足です。インストールされた**HiRDB**体験版プログラムを全てアンインストールし※、インストールに必要なディスク容量(**1.7GB**)を確保した後、再度インストールしてください。

コード = 24の場合

インストール済みの**HiRDB**環境が残っています。インストールされた**HiRDB**体験版プログラムを全てアンインストールし※、体験版インストール先フォルダ(初期値は「**C:¥Program Files¥HiRDB_TR**」)以下のファイルを削除した後、再度インストールしてください。

コード = 25の場合

メモリ不足です。インストールされた**HiRDB**体験版プログラムを全てアンインストールし※、メモリ容量を確保した後、再度インストールしてください。

- インストール中、「**XML**の環境構築中にエラーが発生しました」というメッセージが表示された場合、インストールされた**HiRDB**体験版プログラムを全てアンインストールし※、体験版インストール先フォルダを初期値から変更せずに再度インストールしてください。

※ 一括インストール途中でエラーになった場合は、一部のプログラムがインストールされている状態ですので、インストールされた**HiRDB**体験版プログラムを全てアンインストールし、エラーとなる要因を取り除いた後、再度インストールしてください。**HiRDB**体験版の各プログラム毎のアンインストール方法は、各体験版フォルダの**Readme**に記載されているアンインストール方法を参照してください。

HiRDB/Run Time体験版のインストール中、「システム環境変数**CLASSPATH**が登録されていないかパスが長すぎるため**HiRDB**のパスを追加することができませんでした。」のメッセージが表示された場合

インストール中、**HiRDB/Run Time**体験版セットアップの画面で「システム環境変数**CLASSPATH**が登録されていないかパスが長すぎるため**HiRDB**のパスを追加することができませんでした。」のメッセージが表示された場合(同様の画面が複数回表示される場合があります)次の手順で対処してください。

- インストール自体はそのまま継続して問題ありませんので、インストールを完了させてください。
- **Windows**のコントロールパネルから、「システムとセキュリティ」-「システム」と選択し、「システムの詳細設定」を選択します。
- 環境変数の画面を開き、システム環境変数で、「**CLASSPATH**」を選択し、編集ボタンを押します。もし、「**CLASSPATH**」が存在しない場合は、新規ボタンを押します。新規ボタンを押した場合は、変数の欄が空欄になっていますので、「**CLASSPATH**」を入力します。
- 下記の値を変数値として入力します。

C:¥Program Files¥HiRDB TR¥RT¥utl¥pdjdbc.jar;

C:¥Program Files¥HiRDB TR¥RT¥utl¥pdjdbc2.jar;

C:¥Program Files¥HiRDB TR¥RT¥utl¥pdruntime.jar;

C:¥Program Files¥HiRDB TR¥RT¥utl¥pdnativert.jar;

※既に、上記4変数値のうち、いくつか登録されている場合があります。その場合は、登録されていない変数値のみを追加してください。

※上記の下線部「C:¥Program Files¥HiRDB_TR」の部分は初期値のインストール先です。インストール先を変更した場合は、変更後の値に変えてください。

- **OK**ボタンを押し、入力を確定します。

HiRDB Control Manager上でHiRDBが稼動中になっているが、詳細確認や停止をしようとしてもエラーが発生する場合

HiRDB Control Managerを操作中に、**HiRDB**が稼動中になっているのに、「正常終了に失敗しました。」や「**KFPE34005-E HiRDB**の操作に失敗しました。」というエラーが発生した場合、次の要因が考えられます。

- **HiRDB**が稼動した状態で、**Windows**を再起動した。
- **HiRDB Control Manager**で**HiRDB**を正常開始し、コマンドプロンプトで**HiRDB**を終了した。

これらの場合、**HiRDB**は実際には停止していますので、**HiRDB**を正常開始してください。

HiRDB Control Manager - Consoleから[管理**HiRDB**の新規登録]を実行した際に、「**KFPE23009-E** 通信中にソケットが閉じられました。」というメッセージが表示され、新規登録に失敗した場合

次の要因が考えられますので、要因ごとの対処に従ってください。

【要因1】

セキュリティプログラムのファイアウォール設定機能を使用しているため、**HiRDB Control Manager - Server**、**HiRDB Control Manager - Agent**間の通信がブロックされ、通信路接続要求ができませんでした。

【対処1】

セキュリティプログラムのファイアウォール機能を一時停止して、**HiRDB**体験版を再インストールしたあとに、[管理**HiRDB**の新規登録]を実行してください。

【要因2】

[管理**HiRDB**の新規登録]の操作直前または操作中に、**HiRDB Control Manager - Agent**のサービスを手動で停止または再開したため、**HiRDB**の登録に失敗しました。

【対処2】

HiRDB Control Manager - Agentのサービスを開始後に、[管理**HiRDB**の新規登録]をしてください。サービス開始後は、**HiRDB Control Manager - Agent**のサービスを開始のままに操作してください。

【要因3】

[管理HiRDBの新規登録]を実行するときに指定した**HiRDB Control Manager - Agent**接続用ポート番号(20293)が、すでにほかのプログラムで使用されているため、**HiRDB Control Manager - Server**からの通信路接続要求が拒否されました。

【対処3】

HiRDB Control Manager - Agent接続用ポート番号(20293)を使用しているプログラムを停止してから実行してください。

【要因4】

体験版の試用期限が切れています。

【対処4】

体験版の試用期限を超えて使用することはできません。

HiRDB SQL ExecuterおよびHiRDB SQL Tuning Advisorが起動しない場合

「cltdll.dllが見つかりません。パスの設定を見直してください。」や「KFPX29003-E HiRDBクライアントライブラリが見つかりません。」というエラーが発生した場合、次のとおり対処してください。

1. **Windows**のコントロールパネルから「システムとセキュリティ」→「システム」と選択し、「システムの詳細設定」を選択します。「システムのプロパティ」ウィンドウが開きます。
2. [環境変数]ボタンを選択します。
「環境変数」ウィンドウが開きます。
3. 「システム環境変数」の変数「**Path**」を選択し、[編集]ボタンを選択します。
「システム変数の編集」ウィンドウが開きます。
4. 変数値の末尾に次の文字列を追加します。

C:¥Program Files¥HiRDB TR¥SRV¥CLIENT¥UTL;

※上記の下線部「**C:¥Program Files¥HiRDB TR**」の部分は初期値のインストール先です。インストール先を変更した場合は、変更後の値に変えてください。

5. [OK]ボタンを選択し、「システム変数の編集」ウィンドウを閉じます。
6. [OK]ボタンを選択し、「環境変数」ウィンドウを閉じます。
7. [OK]ボタンを選択し、「システムのプロパティ」ウィンドウを閉じます。

ぜひ、HiRDBの導入をご検討ください！



金融

世の中の重要な社会インフラは
IT基盤なしには支えられない
IT基盤の要はデータベース

データベースの信頼性が
社会インフラの信頼性につながる



公共・教育



産業・流通



交通・運輸



通信

『**止めない・止まらない**』
基幹系RDBMSとして
HiRDBは20年以上、社会インフラを支えてきました。
そして、これからも支え続けます！



医療

他社所有名称に対する表示

- **HITACHI, HiRDB, Cosminexus, uCosminexus**は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。
- **Microsoft, Windows, およびWindows Server**は、米国**Microsoft Corporation**の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- **Microsoft .NET** は、お客様、情報、システムおよびデバイスを繋ぐソフトウェアです。
- **ODBC**は、米国**Microsoft Corporation**が提唱するデータベースアクセス機構です。
- **OracleとJava**は、**Oracle Corporation** 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
- その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

HITACHI
Inspire the Next